



でんき 電気クラゲはどうしてでんきをつくるの

でんき 電気クラゲはでんきをつくらない

クラゲの中には毒をもつクラゲと、毒をもたないクラゲがいます。日本の近くでは、アカクラゲ、アマクサクラゲ、ヒクラゲ、アンドンクラゲ、カツオノエボシなどが毒クラゲとして知られています。

特にカツオノエボシは強い毒をもっているため、別名、電気クラゲともよばれているのです。

このカツオノエボシにさされると、あまりの痛さに思わず電気を受けたようなショックを感じることから、電気クラゲといわれるようになったのです。

なつ 夏、南の海からやってくるカツオノエボシ

南の海でくらしているカツオノエボシは、夏、黒潮にのって日本の海にやってきます。長さ10センチメートルくらいの青紫色の、ふくらむ状の気ほう体があり、これが浮きぶくろの役目をしています。

この気ほう体の下に、栄養や生殖をつかさどるポリプとよばれる体の部分と、数本の長い触手、十数本の短い触手があります。長い触手は、ふだんは引っ込んでいますが、えものをつかまえるときは、5メートル近くも伸びます。

この触手にはり（刺ほう）がならんでいて、このはりから毒を送りこむのです。

（監修 杉浦 宏）

